

加計小3年 野さい農家調さたい

本単元で育成する資質・能力

○気づく力 ○自分で考えて動く力 ○やりぬく力

1 日時 令和5年10月25日(水)6校時(14:05~14:50)

2 学年 第3学年 男子10名 女子8名(うち自閉・情緒学級1名)

3 単元名 「加計小3年 野さい農家調さたい」

4 本単元について

【単元観】

本単元は、低学年で学習してきた生活科の中でも特に、野菜作りについて発展させ「地域や学校の特色に応じた課題」として設定した。児童は、野菜作りをしている農家があることは知っているが、農業を仕事としている人と趣味で農業をしている人との区別がついていない。それは、あまりにも身近すぎるとともに、生まれた時から当たり前そばにあったために認識がされていないと考える。そのため、本単元で職業としての農業を取り上げ、加計小学校区で働く農家の思いや願いを知り、自分たちにできることを考え、実行していく中で気づく力、自分で考えて動く力、やりぬく力を育成することを目指した単元である。

【児童観】

児童は、これまでに生活科で、小松菜栽培、さつまいもの収穫、野菜の栽培、町探検などを通して、地域の人と出会い加計の町について学習してきた。1学期の学びでは、友達同士で協働しながら活動することが得意ということを活かして、調べたいことが似ている友達同士でチームを組み、調べ方や依頼の電話、質問内容を自分達で話し合っで決めることができた。一方で、「考える力」として、話を聞いてさらに質問することや、深めること、話し合いの中で、考えをまとめていくことは今一つである。

【指導観】

(1) 探究的な「見方・考え方」を働かせる手立て

○広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえるために

小学校近くにある商業施設への見学、そこへ野菜を出荷している農家の方へのインタビューを通して、農作物、農家の課題を捉えさせたい。

○実社会・実生活との課題を探究し、自己の生き方を問い続けるために

自分たちの生活と農家・農作物を関連付けて考えられるよう、小単元1では、仕事としての農業と趣味の農業の違いや野菜の育て方などを調べ交流し、農業への関心を高める。小単元2からは、児童の生活圏の中にある商業施設の見学を通して、農家の方の思いや願いに気づかせ、それを叶える方法を考える中で、自己の生き方を考えさせたい。

(2) カリキュラム・マネジメントを通して、各教科における「見方・考え方」を総合的に働かせる手立て

○国語科「ほうこくする文章を書こう」「書くことを考えるときには」「しょうかいする文章を書き、感想を伝えよう」

学んだことを順序立てて報告する文章を書く練習や、書くことを考える時に大切なこと、紹介する文章の書き方の指導を総合的な学習の時間の指導に生かしていきたい。

○社会科「農家の仕事」「店ではたらく人」

「農家の仕事」においては、農業に対する農家の思いや、工夫に気付かせておきたい。

「店ではたらく人」においては、店ではたらく人が農家の思いを消費者に伝えることで、農家の仕事を支えていることに気付かせておきたい。これらの気づきをもとに、自分達に何ができるか考え動くことができるようにさせたい。

(3) 学習ツール・方法の活用

○ICTの活用、思考ツール

スクリーン内の「発表ノート」、その中にツールとしてあるY・Xチャート、クラゲチャートなどを必要に応じて活用できるようにすることで、思考の流れがスムーズに流れるようにしたい。

○協調学習の学び方の活用

チームに分かれて調べる時間と全体で交流する時間を意図的に仕組むことで、自分の学びがみんなのためにもなっている状況を作り、意欲的に取り組めるようにしていく。また、お互いに質問し合うことを通して、より深く学べるようにしていきたい。

5 本単元の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、安芸太田町で農業をしている人々の仕事や思いを理解し、生産者や消費者の立場から課題を設定し、自分たちにできることを考え、行動することができる。

6 本単元の評価基準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	<ul style="list-style-type: none">① 課題解決への見通しを持ち、必要な情報を収集し、学習を進めている。② 情報収集の仕方を身に付けている。③ 地域の特徴やよさ、地域に暮らす人の努力や工夫に気付いている。	<ul style="list-style-type: none">① 加計小学校区の主な農作物から問いを見だし、課題を設定している。② 集めた情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして、整理・分析したことを基に考えている。③ 考えたことを、理由を明らかにして表現している。	<p>(自分自身との関わり)</p> <ul style="list-style-type: none">① 自分から進んで、友達と協力して取り組もうとしている。② 加計小学校区の主な農作物に興味を持ち、自分の課題を見つけたり、活動を振り返り、新たな課題を発見したりしようとしている。③ 学んだことを他の教科に生かしたり生活の中で実行しようとしていたりしている。 <p>(他者や社会との関わり)</p> <ul style="list-style-type: none">④ 自分の考えを伝えたり、他者の意見を受け止めたりすることを通して、よりよい考えを生み出そうとしている。⑤ 取材したり学んだことを発信したりすることを通して、地域の人々と進んで関わろうとしている。⑥ 加計小学校区の主な農作物の特徴やよさを生かすために、自分にできることを考えようとしている。

7 単元の計画(全 70 時間)

Ⅰ	探究の過程(時数)	学習活動	知	思	態	資質・能力
一、地域の野菜作りについて知ろう！	【課題の設定(4)】	○安芸太田の田畑に興味を持つ。 ・タブレットを活用し、土地の様子を調べる。 (社会科との関連)		①	②	気づく力
	どんな人がどんなふうになっているのか調べてまとめよう。					
	【情報の収集(18)】	○これまでの経験(下学年)をもとに、地域で農業をしている方へインタビューをする。 ・電話での依頼 ・グループで質問を考える。 ○津浪地区に行って、さつまいもの苗植え体験	① ②		④ ⑤	自分で考えて動く力
	【整理・分析(4)】 【まとめ・表現(3)】	○学んだことを分類する。(Yチャート) ○報告する文章の書き方を使ってまとめる。(国語科との関連)	③	② ③	① ③	やりぬく力
二、野菜作りの想いを知ろう！	【課題の設定(2)】	○小単元1から、次に知りたいことを考える。		①		気づく力 自分で考えて動く力
	農業を仕事にしている人はどんな思いで作っているのか調べて、新聞でみんなに伝えよう。					
	【情報の収集(15)】	○地元のスーパーなどで売られている野菜の生産者調べ(社会科との関連) ○お店・生産者さんにインタビューをする。 ○1学期に植えたさつまいもの収穫・インタビュー	① ②		② ⑤	やりぬく力
	【整理・分析(5)】 ★本時 4/5 【まとめ・表現(5)】	○学んだことを集約・整理する。 ○新聞を作り、分かったことを紹介する。	①	② ③	① ③	
三、自分たちができることを考えよう！	自分たちができることを考え実行しよう。					
	【課題の設定(1)】	○小単元2で分かったことから、自分たちができることは何かを考える。		②	② ④	気づく力 自分で考えて動く力 やりぬく力
	【情報の収集(6)】	○実践方法を考え、やってみる。 例)POP作り、レシピ本(おすすめの食べ方)			⑤ ⑥	
	【整理・分析(3)】	○やってみた成果などを整理・分析する。	①			
【まとめ・表現(4)】	○報告する文章で校内に発表する。		③	③		

8 本時の学習活動のデザイン

(1) 本時の目標

フレスタやぷらっとホーム、三原さんへのインタビューを通し分かったことをまとめ、農家の人やその野菜を売る人の思いの共通点に気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

集めた情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして、整理・分析したことを基に考えている。(思)

(3) 本時のルーブリック

	自分で考えて動く力
A	Yチャートを活用し、調べたことをどのようにまとめるか考えている。
B	Yチャートを活用し、調べたことを分類している。

(4) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	評価規準
	1. 前時までを振り返る。	○これまでに学習してきたことを振り返ることで本時でやるべきことをはっきりさせる。	
	2. めあてを決める。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ㊦ インタビューしたことを仲間分けして、野菜を売る人の思いをまとめよう。 </div>		
	3. まとめる視点を確かめる。(シート参照) ① なぜ野菜を売っているのか。 ② どうして安芸太田で売っているのか。 ③ 農家の人やはたらく人の思いや願い。	○児童の言葉でめあてを考えさせることで意欲を持たせる。 ○まとめる視点を明らかにし、全体交流をするときに同じ視点でみるができるようにする。	
	4. 分かったことをグループでまとめる。(シート参照) ・たくさんの人に買ってほしいというのはみんな同じ。 ・売る人は、売れるために工夫をしている。 ・作る人は安芸太田の自然を生かして農業をしている。 ・食べる人が安心しておいしいものを手に入れられるように工夫している。	○Yチャートを使い、情報を分析、整理し分かりやすくさせる。 ○前時までにまとめている、Yチャートの付箋を移動させながらまとめることで、共通点を見つけやすいようにする。 ○比べる対象が、生産者、販売者と性質が違うところがあるため、全ての共通でなくてもいいと伝え思考が狭まらないようにする。	◎集めた情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして、整理・分析したことを基に考えている。(思)
	5. 全体で交流する。	○自分達の意見と同じところを探させることで共通点が見つかるようにする。	

	<p>6. 振り返りをする。 ・振り返りの視点「わがともに」で振り返る。 (分かったこと・がんばったこと・友だちの意見でいいと思ったこと・もっと知りたいこと・日常に生かせそうなこと)</p>	<p>○振り返りの視点を提示し、次に繋がる振り返りができるようにする。</p>	
	<p>児童の振り返りの予想 調べたことをまとめると、農家さんや店で働く人たちは、おいしくて新鮮なものを安芸太田に届けたいと思っていること、もっとみんなに知ってほしいと思っていることが分かりました。 地産地消にすると何かいいことがあるのか知りたいです。</p>		

(5) 板書計画

④ インタビューしたことをまとめよう。

班ごとの Y チャート

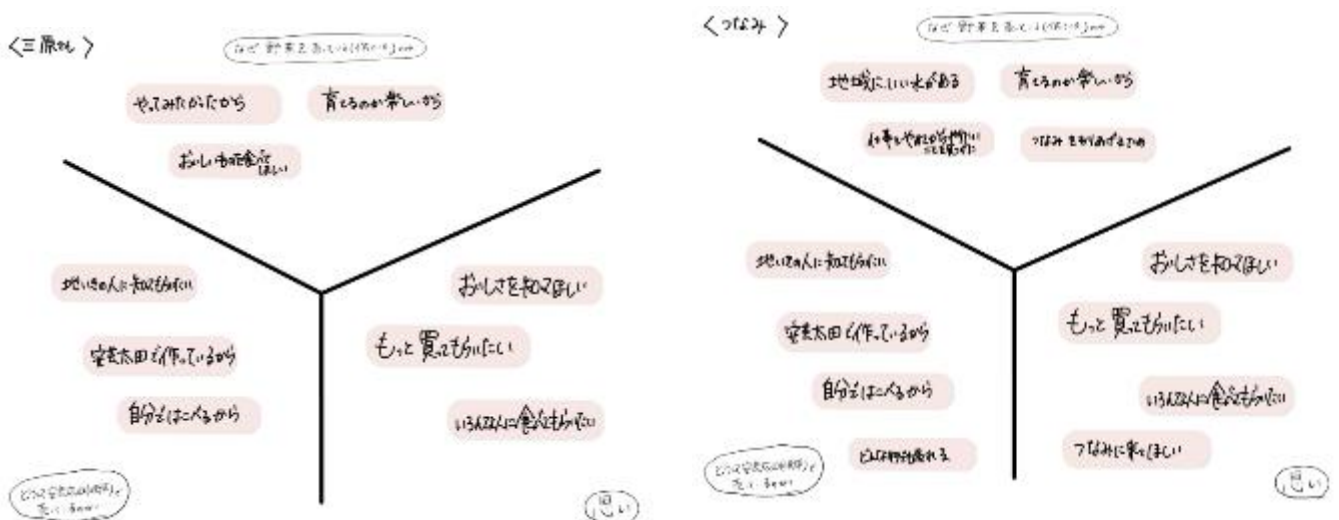
班ごとの Y チャート

班ごとの Y チャート

班ごとの Y チャート

(6) 児童のまとめのイメージ

① 前時までのシートの予想



B	<p>一人でじっくり考えることは苦手。静かな環境でも話し続ける。</p>	<p>グループで協働する環境を用意することで、話し続けても迷惑にならず、学習に参加でき、さらに自分の意見が反映されるようにする。 お互いを認めるような、発表に対する反応の指導。</p>	<p>友だちの話を聞きながら質問したり、意見を言ったりすることに集中できる。</p>
C	<p>友達と話し合うこと自体は好きで意欲的に参加できるが、友達の意見を聞いたり、自分の意見を言うのを待ったりすることが難しい。</p>	<p>みんなの話が途切れたときに発言するように促したり、なかなか話せそうにない時には、グループのみんなに声を掛けたりする。</p>	<p>友達の意見を聞いてから、自分の意見を話すことができる。</p>